

小美玉市学校規模配置適正化基本方針住民説明会での意見・質問の整理

1. 説明内容・説明会の趣旨について

1-1 時間的めどについて

最も多くだされた質問は、適正化あるいはそれに関わる時間的めどについてであった（7会場、9件）。実施計画の策定期及びその実施期間などについて質問がなされた。その他、適正化の時期の問題としては、なぜ今適正化の問題が出ているのかという質問、適正化は今ではなく時期を遅らせた方がよいという意見、少子化が進むので結論を先送りにすべきではないという意見がそれぞれ1件あった。

1-2 具体的なビジョンを求める意見

説明内容に具体的なビジョンがないという意見も多かった（3会場、6件）。具体的な案はないのかという質問もあった（2会場、2件）。具体的なビジョンや案が示されないので、意見を求められても答えにくいし、有効な議論ができないのではないかという意見もあった（3会場、3件）。

1-3 教育の実態や予測に関する情報が欲しい

このことに関わって、市の教育の実態や予測について情報が欲しいという意見もあった。最も希望が多かったのは自分の学区や市全体の児童生徒数の推計であった（4会場、4件）。その他、市の学校教育費の実態（2会場、3件）、学区外通学の実態（1件）、学校小規模化の原因（1件）、他市町村の動向（1件）についての情報が求められた。

1-4 うわさ

適正化の具体的な内容や進め方についてのうわさとそこから生じる不信感についての言及が多く聞かれた（3会場、7件）。

2. 適正化の考え方について

2-1 適正規模の根拠について

「基本方針」で示した学級及び学校の適正規模の根拠について疑問が投げかけられた。その多くはアンケート結果の妥当性に関わるものであった（6会場、13件）。具体的には、アンケートへの回答は漠然と答えたもので根拠としては弱いのではないか、小規模校の意見や教員の意見を重視すべきではないか、アンケート結果と適正化委員会での議論の関係はどうなのか、などの意見があった。

また、財政効率化のための適正規模化になっているのではないかという意見や（1会場、4件）、一般論ではなく具体的な地域の実情に即してよい教育を与えられる内容にしてもらいたいという意見があった（1件）。

こうした意見の背景には、「基本方針」が数合わせに見え、適正規模化の根拠となる教育の理念が示されていないという問題意識（2会場、3件）がある。

2-2 小規模校の良さ

小規模校の良さを強調する意見も多く、2つの会場では学力面でも社会性の面でも問題はないという意見が繰り返し表明された(2会場、12件)。説明会では小規模校のデメリットが明確に示されていないという意見や(1会場、2件)、大規模校にも問題があるのではないかという意見(1件)、少子化でもやっていけることをアピールすることを考えてもよいのではないかという意見(1件)もあった。

2-3 コミュニティの核としての学校は大事

小学校がコミュニティの核として重要であるので、学校を残すべきであるという意見が多かった(3会場、3件)。その他、旧町村を越えた統廃合への懸念、統廃合があった場合の地域の活性低下の懸念、母校がなくなることがかわいそうという意見、がそれぞれ1件あった。また、統廃合の対象となった学校の校舎を地域のために活用する必要も指摘された(1件)。

2-4 規模適正化への賛否

上述の2-1、2-2、2-3も概ね基本方針に関する反対意見や懸念であるが、明確に適正化(再編統合)に反対する意見もあった(3会場、4件)。小規模校の良さを大事にすべき、地域の伝統が重要、などがその理由である。

逆に明確に賛成する意見もあった(3会場、3件)。クラス替えができる方が望ましい、多様な人との交流や切磋琢磨ができる方がよい、などがその理由である。

その他、統廃合はやむを得ないのではないかという意見と、是非の判断は難しいという意見がそれぞれ1件あった。

2-5 校舎の問題

規模の適正化に伴う校舎の問題への疑問が出された。最近新築された学校は残す方針なのか(1件)、統廃合した場合既存の教室数で足りなくなるのではないか(2会場、2件)という質問があった。

3. これからの学校の在り方について

3-1 基本的な在り方

これからの学校や教育の基本的な在り方については、コミュニケーション力が重要(2会場、2件)、質のよい教員を集め質のよい教育をすることが重要(1件)、地域活動でもっと学校を使えるようにするなど学校の付加価値を付けることが重要(1件)という意見があった。他に、学童保育がどうなるのかという質問があった(1件)。

3-2 小中一貫教育

小中一貫教育については関心を集めた。市として小中一貫教育を推進するのかという質問があった(3会場、3件)。小中一貫校をつくった場合、その学校は選択制にするのかという質問もあった(1件)。小中一貫教育のメリットとデメリット、地域の声などを示して

もらいたいという要望があった(3会場、4件)。

3-3 コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールについても関心が示された。コミュニティ・スクールという制度についての説明を求める質問(2会場、2件)、そのメリットについての説明を求める質問(2会場、3件)があり、市としてコミュニティ・スクールを推進するのかが問われた(1件)。

3-4 少人数学級と教員配置

少人数学級については期待がうかがえる。しかし、いくつかの懸念が示された。一つは適正学級規模を20~30人と示しながら、他方で36名以上にしないと書くなど、学級編制についての考え方が明確でない部分があることへの懸念であり(3会場、3件)、いま一つは少人数学級編制のための教員配置の予算についての懸念である(2会場、3人)。また、少人数学級編制よりも副担任によるTTのための臨時採用の方がよいのではないかという意見もあった(1件)。

3-5 学校建築の問題

学校建築についての問題が指摘された。とくに橘小学校については、騒音問題がある中で学校改築が進んでいないことについての懸念が表明された(1会場、4件)。また、市全体として、古い校舎をどのような改築していくのかについての質問があった(1件)。

3-6 通学手段

適正化に伴う通学手段の問題についての関心が高かった。とにかく通学手段について関心があるという意見の他(2会場、2件)、車で送り迎えをしないで通学できる距離を確保してほしいという意見があった(1件)。また、スクールバスなどを出すようになった場合、その予算はあるのか私費負担は求められないのかという懸念が示された(2会場、3件)。スクールバスなどになった場合、学校での活動が時間的に制約されるのではないかという懸念も表明された(1件)。

4. 今後の進め方について

4-1 住民の意見を尊重してほしい

今後の進行において、とにかく住民の意見を十分聞いて尊重すべきであるという意見は多く述べられた(6会場、10件)。その中には、具体的な案を示して地区ごとにアンケートを実施してはどうかという意見(2件)、地区ごとの話しやすい話し合いの場を設けてほしいという意見(1件)、子ども議会の意見を反映してほしいという意見(1件)、があった。

その他、他地区の説明会で出た意見をフィードバックしてほしいという意見(2会場、2件)や、教員の意見も知りたいという意見(1件)があった。また、今後再度のきめ細かい説明会についての要望やその実施についての質問があった(2会場、3件)。

これまでも学校の在り方について PTA で検討して、みんなで勉強して結論を出そうということになった取り組みが報告された（1件）。また、今後 PTA で検討する場合、いつまでにまとめて、どこに提出すればよいのかという質問があった（1件）。

4-2 県や国の方針に囚われないでほしい

県や国の方針に囚われないでほしいという意見があった（2会場、3件）。「基本方針」に示された適正規模が「文科省から下ってきた数字ではないか」という不信感が表明され、アンケートでも件の指針は重視しなくてよいという意見が多いことの確認が求められた。

4-3 適正化検討委員会をオープンにしてほしい

適正化検討委員会を夜間開催にしたりそこで傍聴人の発言を許可したりして、よりオープンにしてほしいという意見があった（1件）。また、適正化検討委員会委員に 10代、20代の委員がいない理由についての質問があった（1件）。

5. 総合的な施策の課題

学校規模と配置の問題を超えて、より広い社会政策の課題を指摘する意見があった。一つは少子化をくい止め、子どもを増やす政策を求める意見であり（1会場、2件）、いま一つは雇用対策の課題を指摘する意見であった（1件）。